

職業としての音楽を考える 附属盲学校音楽科が研究演奏会

視覚障害者のための音楽の専門教育機関として知られる筑波大学附属視覚特別支援学校（附属盲学校）音楽科は、2020年11月7日、第2回研究演奏会「音楽を職業とするために一視覚障害のある生徒への指導をめぐる一」を開催した。2020年3月に予定されていたものがコロナ禍の影響で延期され、オンラインでの開催となり、全国から約50人がアクセスした。（本誌）

2つの背景

研究演奏会を企画した同校音楽科教諭の熊沢彩子さんは、背景に2つの問題意識があると説く。

1つは、音楽科に進学しようとする生徒が、家族から「音楽では食べていけない」と反対され、進学を断念したという複数の話から生まれた、「本当に音楽の道では食べていけないのか？」という疑問。熊沢さんは、指導者や、音楽に関係する企業への勤務、仕事以外でも音楽活動が続けることなど、音楽との幅広い関わり方を挙げ、実際以上に「音楽で食べていくのは難しい」というイメージが流布している可能性を指摘する。

もう1つは、2018年に熊沢さんが、同校の卒業生で今回の研究演奏会にも参加している澤村祐司さんらと台湾に演奏旅行に出かけた時のエピソード。澤村さんが、大きな箏を飛行機で輸送する準備や援助を求める段取りなどを自身でこなしている姿から、「こういうことができないと（視覚障害のある）演奏家として活躍できないのかと認識を新たにした」という。